



交運労協ニュース No. 18

港区芝浦3-2-22 田町交通ビル3階

発行日 2024年5月24日

TEL:03-3769-6571 FAX:03-3769-6570

発行人 慶島 讓治

交運労協URL <http://www.itf-jc.jp>

【人材不足を克服し魅力ある持続的な交通運輸・観光サービス産業を創るために】

第29回交通運輸政策研究集会を開催！

交運労協は5月20日～21日の2日間に渡り、第29回交通運輸政策研究集会をアートホテル日暮里ラングウッドにて、構成組織115名・地方交運労協57名、合計172名の参加をもって開催した。

今回の集会は各モード喫緊の課題である「人材不足」をテーマに掲げ、2つの基調講演とパネルディスカッション、翌日は3テーマに分かれての分科会を行った。

冒頭、蒔田事務局次長の司会で開会した後、主催者を代表して住野議長は、「今集会のテーマを設定するにあたり我々が考えているのは、人材確保育成に向けては賃金や働き方を含めた労働環境の改善だけではなく、これから女性の活躍が重要であり、外国人を含めた多様性も受け入れながら、人材確保・育成・定着とつなげていきたいということだ。交通運輸観光サービスの再構築に向けては、社会のインフラとしての位置づけをこれからどう作っていくか。2日間という限られた時間であるが交運労協が一体となった政策の実現に向けた実りある集会にしていきたい」と挨拶した。



交運労協・住野議長



NX総研・大原主任研究員



流通経済大学・板谷教授

続いて、(株)NX総合研究所（以下、NX総研）の大原みれい主任研究員より「産業の基盤たる人材の確保と定着に向けて～女性活躍・ダイバーシティ推進～」と題し、交通・運輸・観光サービス産業の人材不足の現状やその対応策、解決に向けてのダイバーシティ推進と女性活躍の有効性などについて、基調講演を行った。

次に、流通経済大学の板谷和也教授より「持続可能な交通運輸・観光サービス産業を創るために一人材不足の要因とその解決に向けて～」と題し、基調講演を受けた。板谷教授は、人材不足の要因と解決できない理由、短期的な解決方法を示した後、事業の効率化が労働改善につながると指摘し、経営者に問題を意識させ、動かすためには「今こそ、労働運動が必要な時では」と私たち労働組合にエールを送っていただいた。

講演後、「人材不足を克服し魅力ある持続的な交通運輸・観光サービス産業を創るために」をテーマとし、パネラーにNX総研・大原研究員、流通経済大学・板谷教授、構成組織より運輸労連・今井中央書記次長、航空連合・坂元副事務局長、交運労協・慶島事務局長が登壇し、荻山政策委員長（JR連合会長）がコーディネーターを務めるパネルディスカッションを行った。各パネラーの発言は、次のとおり。

【運輸労連 今井中央書記次長】

トラック輸送産業の現状として、ドライバーは長時間労働かつ低賃金であり、脳・心臓疾患による労災補償も多く、高齢化が進み、圧倒的な人手不足だ。このままだと物流自体が止まってしまう可能性すらある。働き方改革の推進や改善基準告示の遵守などの対策を打つ一方で、2024春闘において運輸労連は月額15,000円の賃上げを統一要求した。また行政も「『標準的な運賃』および『標準運送約款』の見直し」や「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」の発出、荷主対策などの施策を打ってくれている。女性活躍推進に関しては、第1次ジェンダー平等推進計画を策定し、女性委員会を立ち上げ活動を始めているところだ、

【航空連合 坂元副事務局長】

航空業界は、コロナ禍によって大幅な旅客減を経験したが、現在は需要が回復しつつある。一方でハンドリング業務や整備士、保安検査員など業界を去った方も多く、人材不足の状況であり、実際に現場の稼働ひっ迫や安全面での懸念、さらなる離職を招くなど悪循環に陥っている。採用の再開や労働条件の改善、産業の魅力向上等、改善に向けて取り組んでいる。女性活躍推進については、職種や世代によって男女間バランスが偏っているという特徴を鑑み、“各職場や労組活動において、多様性が尊重され、一人ひとりが安心して個性と能力を発揮できることをめざし”2021年10月に「航空連合ジェンダー推進計画」を策定した。またジェンダー平等推進フォーラムや女性リーダー研修も開催している。



パネルディスカッションの様子



運輸労連・今井中央書記次長



航空連合・坂元副事務局長

【交運労協 慶島事務局長】

人材の確保・定着・離職防止に向けた課題の解消に向け、賃金・労働条件の向上は不可欠である。賃上げの原資となる運賃・料金制度の見直し等が各モードで行われている。例えば鉄道は、本年4月に総括原価の算定方法を定める「収入原価算定要領」を見直した。なかでも「人材の確保」では、適正な賃金上昇を反映できるよう、人件費の算定方法について、「人件費＝基準コスト×伸び率」という算定式は維持しつ

つ、「伸び率」には、鉄道事業者における人件費上昇率（実績値）のみならず、賃金構造基本統計調査等に基づく他産業の伸び率を反映する方法に見直しを行っている。

【N X 総研 大原研究員】

1つは、勤務形態に関し交通運輸産業にコンビニのような24時間営業を求めて欲しくないし、当たり前と思って欲しくないと思っている。コロナ禍を契機として社会、消費者も考え方が変わってきていると感じる。特に若年層も働き方について長時間労働や夜勤は避けたいという方も増えてきていることから、それに合わせて徐々に業務時間とか勤務時間も見直していくべきなのではないかと考える。

2つ目として、不規則勤務等については、育児や介護、特段の事情がある場合、免除や配慮がなされていることが多いと思われる。結果として社員間で負担のしわ寄せ、不公平感も出てくるが、その分は手当の支給などで納得してもらいなり、また自分自身も将来的に育児や介護、病気になって急に働けなくなる、といった事態も起こり得る可能性はゼロではないことから、助け合ってこの人材不足の危機を皆で乗り越えていかなければならないと思っている。

女性活躍推進について、社会における性別による役割分担意識が根底にあることがネックとなっている。例えば「男性は外で働いて、女性は家庭優先で支障が出ない範囲で働く」「女性よりも男性の方が管理職に向いている」「子どもが塾を出したときにお迎えに行くのは女性」「育休で長期間休むのは女性」など。結果として女性のキャリア形成の妨げとなり、男女の賃金格差につながっている。女性の管理職が増えていけば是正に繋がっていくわけで、若いときからキャリアアップの意識付けとか長期的なキャリアパスを描けるように会社がサポートするという取り組みが必要だ。女性もキャリアを継続させていくという意識、逆に言えば子供を持ってもキャリアを諦めなくていいとか、子供がいても活躍できるのが当たり前であるというような職場や社会の環境作りが必要と考える。

【流通経済大学 板谷教授】

多重下請の話聞いて、これは業界の慣行で変えなければいけない一番大きいところだと感じた。私たちができる範囲ではないかもしれないが、問題意識として経営者にも把握をしてもらい、あわせて国もさらに問題意識を強く持ってもらいたい。

また、ゆとりを持った働き方をするためには社会全体がゆとりを持たないといけないと感じている。海外の例を出すと、フランスやドイツにはコンビニは存在せず、夜になると商店は閉店し、日曜日はショッピングセンター以外基本的に店は開かない。それで本当に不便かというところではなく、社会がそれを前提にして生活を作っている。つまり、日本全体が変わっていかないとこの問題の根幹からの解決は厳しいと考える。

女性活躍推進については、端緒の段階で既に平等でない、不平等な状態から女性に対し、頑張るって上に行きましょうと言っても難しいのではないかと。社会における性別による役割分担意識の切り替えは、意識の醸成、社会全体で平等が当たり前だと考えて活動を継続することが重要だ。

最後に荻山政策委員長が、「我々の産業は様々な課題があるが、パネルディスカッションを通じて得た気づきをしっかりと共有しながら、それぞれの構成組織で取り組んでいただくきたい」とまとめ、1日目のプログラムが終了した。

翌21日は3つのテーマに分かれて、分科会を行った。各分科会のまとめについては以下の通りである。



J R 連合・石川産業政策局長



運輸労連・坂井中央書記次長



サービス連合・岡本政策局長

○第1分科会：人流・観光サービス

(要旨) ①改正地域交通法を活かした取り組み、②地域協議会への労働組合の関わりと課題、③ライドシェア新法導入を阻止し持続可能な地域交通を創造する取り組み、④街づくり・観光立国にむけた交通のあり方、の4つの論点について討議を行った。

①②について各構成組織、地方交運より取り組みの紹介があった。また大量輸送という鉄道の特徴を發揮できるか否か、データとファクトに基づいて議論が進むよう国が指導をとる意見も出された。そうした議論にどうやって労働組合が参画していくかについても言及がなされた。③について、日本のタクシー産業は世界一とも言われる。まずはこれをしっかりと活用すべきであり、海外で導入されているライドシェア新法制定に対して阻止すべきとの意見集約がなされた。④について、オーバーツーリズムが各地で発生しており、例えば沖縄ではレンタカー需要が高まり、道路事情への影響も懸念される。観光地、旅行者双方の安全が守られるような取り組みが必要との意見集約がなされた。(報告：J R 連合・石川産業政策局長)

○第2分科会：物流・モーダルミックス

(要旨) ①物流クライシスへの対応、②モーダルミックス実現への課題、③改正物流効率化法・貨物自動車運送事業法を活かした取り組み、④物流労働の価値の再評価に向けて、の4つの論点について討議を行った。

はじめに日本海事協会の谷口様よりドライバーのために働きやすい職場認証制度を海事協会が認証実施団体として取り組んでいること、その内容について報告をいただき討議に入った。論点は多岐に渡るが、やはり人材不足が大きいということで各モードより課題について報告をいただいた。トラックに関しては、1990年に運送業を許可制とする規制緩和が行われ、運賃もそれまでの認可運賃制から事前届出制に変更となって以降、事業者が増加し過当競争となったことから長時間労働、低賃金の状況を招いた。今になって国も重い腰を上げ、価格転嫁や適正取引等の取り組みをはじめ、よ

うやくスタート地点に立てたという報告があった。鉄道からは人材の定着が課題であり、企業努力だけではなかなか難しいということ、人手不足の中で他社からよりよい条件提示を受け離職者が多いことなど発言があった。また鉄道貨物も中長距離についてはトラック輸送との競合も激しくコスト含めてなかなか競争力が保てず、さらに頻発する自然災害による不通もあって荷主からの信頼性も高くないといった課題も報告があった。港湾からは国が推進している31フィートコンテナの導入について、これまで20フィート、40フィートが中心であったことから31フィート導入にあたっては新たな設備投資が必要だという発言があった。次に航空貨物からは「航空」というと旅客輸送というイメージが強く、貨物部門はいわば光が当たらない注目度が低い職種であること、一時的に国際航空貨物の需要が増えた際に業務過多となり退職者が続出したという報告があった。

最後に労働時間規制など様々な取り組みがなされているが、まずはしっかりやっていくということが重要であり、全産業水準以上の賃金がもらえるような職場にしていく必要がある、それが物流の再評価に繋がっていく、という意見集約がなされた。

(報告：運輸労連・坂井中央書記次長)

○第3分科会：男女平等参画・女性活躍

(要旨) ①労働組合が女性組合員のキャリア形成にいかに向き合うか、②男女間賃金格差の是正に向けた課題、③労働組合における女性リーダー育成に向けた課題、④あらゆるハラスメント防止に向けた課題、の4つの論点について討議を行った。

主に①と③の論点で様々な意見をいただいたが、特に女性リーダーの育成に向けた課題で「ロールモデル」というキーワードのもと、精力的に組合活動をやっておられる女性たちの悩み、後輩がその人達をどう見ているのかということに対する悩みについての発言があった。その中で「ロールモデル」というのは憧れられなければならないということではなく、様々な形があってもいいのではないかという発言があった。

また②の男女間賃金格差については、育児休業によるブランクや職種の違いによる評価の問題が男女間格差の根底にあるのではないかと、また全国転勤や「この仕事は女性には無理」といった無意識の判断が男女間格差、キャリアにも大きく影響を及ぼすのではといった意見もあった。最後に④ハラスメントであるが、交通運輸業では旅客と緊密な状態で勤務をせざるを得ないタクシードライバーやバスドライバーなどが悩みを持っている現状が発表された。カスタマーハラスメントについては、会社が毅然とした態度を持って対策をとることがまず一番であるといった意見交換がなされた。(報告：サービス連合・岡本政策局長)

集会の最後に、荻山政策委員長は「今年の交研集会のテーマは人材不足であったが、コロナ禍を契機に社会が今大きく変化をしてきていると思う。ただし必ずしも全てがピンチではなく、労働力不足なのだから働き方に合わせた仕事の仕方、働き方を作る必要がある。また女性活躍推進については、様々な気づきや知見を得ることができた。やはり様々な立場の方を包摂できるような労働組合に我々も変わっていかなければならない。特に交通運輸の世界はいままで男性中心であったこともあり、既成概

念を変えていかなければならない。女性が働きやすい職場というのは、誰もが働きやすい職場だということを普遍的なことであると受け止め、女性が組合に参画をして、役員になっていただくことが重要だ。併せて、それぞれの立場で今回の集会の成果を構成組織の皆さんにも運動に活かしていただくことをお願い申し上げたい。この交通運輸・観光サービス産業は離職が多くて人の出入りの激しい業界であったが、一方でいわゆるキーワーカーとして、皆さんが誇りを持ち安心して意欲高くずっと長く働けるような魅力のある産業にしていくことが何よりも大切だ」と挨拶し、閉会した。



会場の様子



荻山政策委員長（JR連合会長）



がんばろう三唱で閉会！

以上